



IEEE AP-S Japan Chapter 創立 50 周年特別講演会 最新アンテナ伝搬システム研究とその将来展望 ～ワイヤレス利用シーン拡大を目指して～

IEEE Antennas and Propagation Society (AP-S) は、国内 Chapter として、現在、Tokyo Chapter, Fukuoka Chapter, Kansai Chapter, Nagoya Chapter の 4 つの Chapter で運営されております。その前身であります AP-S Tokyo Chapter は 1972 年に発足し、今年度で創立 50 周年を迎えることとなりました。

この創立 50 周年を記念し、アンテナ伝搬研究分野の第一線でご活躍されている講師をお招きし、アンテナ、電波伝搬、アンテナシステムの最新の研究をご紹介いただく講演会を開催いたします。会員・非会員問わず参加可能（無料）です。皆様の参加をお待ちしております。

主催： IEEE AP-S Tokyo Chapter

共催： IEEE AP-S Fukuoka Chapter, Kansai Chapter, Nagoya Chapter

日時： 令和 4 年 11 月 9 日（水） 13：00～17：00 （受付開始 12:30～）

場所： ハイブリッド開催

オンラインと現地：（株）構造計画研究所 本所新館 B1F レクチャールーム

（東京都中野区中央 4-5-3 <https://www.kke.co.jp/corporate/access/>）

題目： IEEE AP-S Japan Chapter 設立 50 周年特別講演会

最新アンテナ伝搬システム研究とその将来展望～ワイヤレス利用シーン拡大を目指して～

司会：大塚 昌孝（Tokyo Chapter Vice Chair, 三菱電機株式会社）

1. IEEE AP-S Tokyo Chapter Chair 挨拶 石井 望（新潟大学）
2. Chapter 設立 50 周年を祝して – 継続とさらなる挑戦への願い – 鹿子嶋 憲一（茨城大学）
3. IEEE AP-S の現況紹介と日本への期待 伊藤 公一（IEEE AP-S Past President, 千葉大学）
4. 今後の移動通信用アンテナには何が求められるのか？ 長 敬三（千葉工業大学）
5. 進展する電波センシング技術 山田 寛喜（新潟大学）
6. 次世代無線アプリケーションに向けたアンテナ計測用光ファイバ無線装置の開発 と AIST ベンチャーによる社会実装 黒川 悟（国立研究開発法人産業技術総合研究所, 7G aa 株式会社）

本件連絡先：IEEE AP-S Tokyo Chapter Vice Chair

三菱電機株式会社 大塚 昌孝

E-mail：aps_tc@ieee-jp.org



プログラム

- 13:00-13:05 IEEE AP-S Tokyo Chapter Chair 挨拶 石井 望(新潟大学)

- 13:05-13:35 講師: 鹿子嶋 憲一(茨城大学)
演題: Chapter 設立 50 周年を祝して 一継続とさらなる挑戦への願いー
概要: IEEE AP-S Tokyo Chapter 50 周年への祝意と Chapter 役員の方々のリーダーシップ, 会員の皆様の継続的な熱意に敬意を表します. 50 年間に蓄積された活動の実践力と組織力を振り返りつつ, 今後 Tokyo Chapter のさらなる挑戦への期待を述べます.

- 13:35-14:05 講師: 伊藤 公一 (IEEE AP-S Past President, 千葉大学)
演題: IEEE AP-S の現況紹介と日本への期待
概要: IEEE Antennas and Propagation Society (AP-S)は, 1949 年に設立されました. 現在, AP-S は全世界で 10,000 名近くの会員を有し, 財政的にも健全で, 活発な活動を行っています. 本講演では, IEEE AP-S の現況を簡潔にご紹介するとともに, 最新のアンテナ伝搬研究に対する取組みを概説します. さらに, IEEE AP-S として日本へ期待することを, 私見を交えてお話ししたいと思います.

- 14:05-14:55 講師: 長 敬三(千葉工業大学)
演題: 今後の移動通信用アンテナには何が求められるのか?
概要: 5G システムにおけるミリ波帯の利用は, これまでの移動通信用アンテナへの要求条件を根本的に変えるものとなっている. さらに 6G ではテラヘルツ帯の利用や, 地上以外の基地局の利用, ドローンなど新たな移動体の登場など, アンテナに求められる要求条件がさらに多様化している. 本講演では, 移動通信アンテナ技術の変遷を紹介した後, B5G, 6G を見据え今後のアンテナに求められるものについて考察する.

- 14:55-15:10 休憩

- 15:10-16:00 講師: 山田 寛喜(新潟大学)
演題: 進展する電波センシング技術
概要: 電波の古くから活用されている分野の一つがセンシングである. 電波センシング, すなわちレーダの役割は, デバイスや計算機の発達に伴い, 単なる検出のみならず認識(Recognition)へと進展しており, 近年のミリ波レーダの普及は幅広い展開を加速している. 本講演では電波センシングの研究動向を紹介し, 今後を展望する.

- 16:00-16:50 講師: 黒川 悟(国立研究開発法人産業技術総合研究所, 7G aa 株式会社)
演題: 次世代無線アプリケーションに向けたアンテナ計測用光ファイバ無線装置の開発 と AIST ベンチャーによる社会実装
概要: 無線利用アプリケーションは, 通信容量等が大幅に増加し, Beyond 5G では, 300 GHz 帯の利用も検討されている. 我々は, 次世代通信用アンテナ測定に用いる光ファイバ無線技術を開発し, 産総研発ベンチャー 7G aa (株)を設立し, 社会実装を実現した.

- 16:50-16:55 閉会の辞 石井 望(新潟大学)